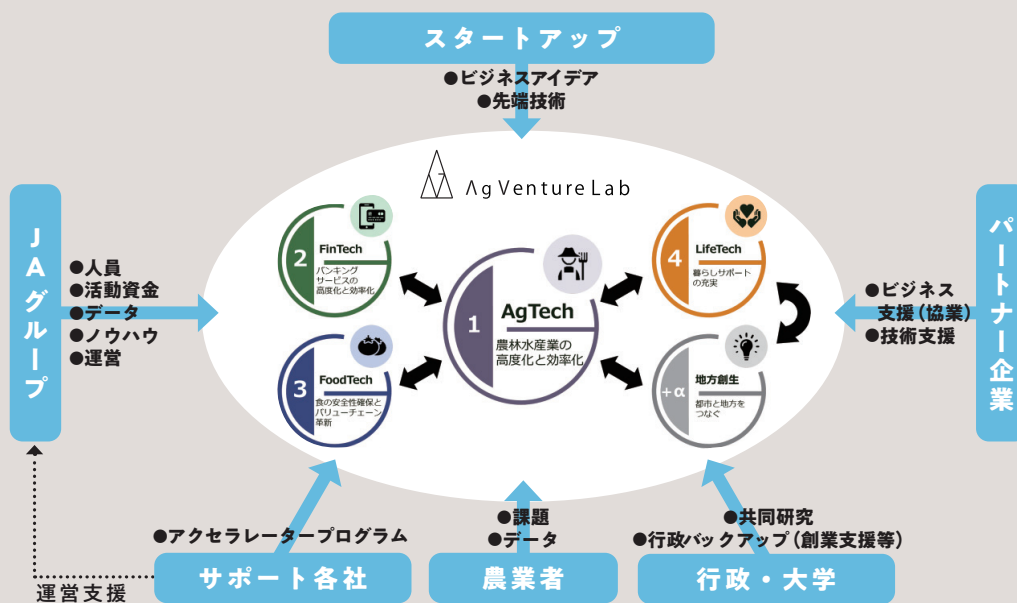


Innovation & Sustainability Management

デジタルイノベーションとサステナブル経営

テクノロジーによる革新と持続可能な社会の実現に向け、
未来志向のマネジメントを推進しています。

食と農とくらしのイノベーション



JAアクセラレーター

コンセプト

JAアクセラレーターは、「食と農とくらしのイノベーション」をキャッチコピーとして、革新的なアイデアや技術をもったスタートアップ企業の成長を支援し、新ビジネス・サービス開発に繋げるためのプログラム。

注力領域

1 農業・食



- ・農業や食の高度化や効率化へのアイデア。
- ・現場の労働力不足解消につながるもの。

2 くらし



- ・暮らしの利便性向上につながるサービス・ビジネスアイデア。

3 金融



- ・金融(銀行・保険)分野における先端技術を用いたもの。

4 その他



- ・地域活性化につながる。
- ・JAグループの各種アセットを活用し、左記の領域をまたぐ革新的なアイデア。

オープンイノベーションでお客様と地域を支える

私たちは、多様なスタートアップ企業やパートナー企業、行政・大学などと積極的に連携し、JAグループを挙げてオープンイノベーションを促進することで、JAの総合事業の強みを活かした商品やサービスの創発を目指しています。フィンテック、アグテック、ライフテックなどを通じて、農林水産業と地域のくらしに寄り添ったデジタル総合サービスを生み出し、お客様の利便性

向上につなげていくためです。

2019年度にはJAグループ合同で「AgVenture Lab (アグベンチャーラボ)」を開設。「JAアクセラレータープログラム」の対象企業をすでに15社選定し、金融・食農分野を中心にテクノロジーとアイデアを持つ若い企業を支援しています。

詳しくは ⇒ <https://agventurelab.or.jp>

経営課題として取り組む イノベーションとサステナビリティ



コーポレート本部長
大竹和彦

「食農」「リテール」「投資」の3ビジネスで新たな価値を創造していくため、農林中央金庫はデジタルイノベーションの活用とサステナブル経営の推進に積極的に取り組んでいます。フィンテックやアグテックの進化を受け、2019年度はJAグループと共同でAgVenture Labを新設。企業や中央省庁、地方自治体、大学などと連携して、食農産業や金融業の新たな形を見出そうとしています。ラボが舞台の「JAアクセラレータープログラム」はすでに2クール実施し、350社を超える応募から15社を選んで育成を進めています。

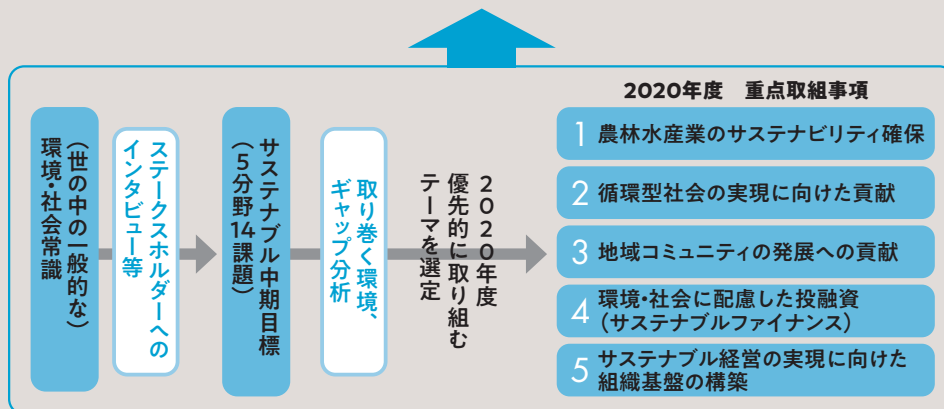
一方、サステナブル経営は、農林水産業と地域を基盤とする金融機関として真剣に取り組んでいるテーマです。中期経営計画で打ち出した2023年度までの施策の実現に加え、2050年を見据えたうえでの2030年くらいまでの中期目標を立てようと検討を続けています。コーポレートブランドにある「いのち」を上位概念として、幅広い分野・局面で持続可能性をどう高めていくのか、議論しているところです。

新型コロナウイルス問題でも社会や経済のあり方が大きく変わっています。私たちは変化に対応し、変化を生み出して、自らも変わりつつ持続・成長していかなければなりません。そう言い続け、取り組み続けていくことが必要だと考えています。

取組方針

環境・社会課題の解決に事業活動を通じて貢献し、農林水産業や地域社会の持続可能性(サステナビリティ)を確保する

貢献する主なSDGs



ビジネスの全局面で持続可能性の向上を目指す

環境・社会問題が多様化・深刻化するなか、持続可能な社会の実現に向けた取組みが世界規模で進展。「持続可能な開発目標 (SDGs)」や「パリ協定」の順守など、企業に対する環境・社会課題解決への期待が高まっています。こうした変化を捉え、私たちはサステナブル中期目標を設定。サステナブル経営の実現に向けた取組みについて、理事会傘下のサステナブル協

議会で協議しています。

2020年度は農林水産業を取り巻く課題を踏まえ、農林水産業者の協同組織を基盤とする金融機関として、5つの重点取組事項を設定。これに基づく具体的な施策を経営計画上に定め、実践することで、農林水産業や地域社会のサステナビリティ確保に貢献していきます。詳しくは⇒<https://www.nochubank.or.jp/sustainability/>